

通訳・翻訳の視点から見る日中両言語における語順の逆転現象

朱 浩 昱

要旨

日中両言語を翻訳する際、語順が逆になる現象（語順の逆転現象）が語彙、フレーズ、文の各レベルにおいて広く見られる。

語彙レベルでは「死生観（中国語：生死观）」、「短縮（中国語：缩短）」、「面会（中国語：会面）」など、フレーズレベルでは「3泊4日（中国語：四天三夜）」、「ファンの一部（中国語：部分球迷）」、「販路開拓（中国語：拓展销路）」などがあり、文のレベルでは「上海に帰ります（中国語：回上海）」、「言わないのが普通です（中国語：一般不说）」などのように、訳すと語順が逆になる例が多く存在している。

筆者は、翻訳者通訳者が文章を訳す時にこのような語順の逆転現象を意識することによって、より自然な訳し方ができると考えている。従って、両言語の語順が逆になっている語彙、フレーズ、文型をそれぞれリストアップし分析することは、通訳・翻訳のレベルアップに繋がると考える。更に、この語順の逆転現象の背景にある原因の解明は、両言語の本質をより深く理解することに繋がるであろう。

筆者は、語彙、フレーズ、文の各レベルの語順の逆転現象の原因を以下の3つに分析している。

1つ目として、両言語は構造的に異なっているという点が挙げられる。中国語はSVO（主語＋述語＋目的語）であるのに対し、日本語はSOV（主語＋目的語＋述語）の構造となっている。よって、「面会（中国語：会面）」や「販路開拓（中国語：拓展销路）」、「言わないのが普通です（中国語：一般不说）」のような語順の逆転現象が生じる。

2つ目として、中国語が孤立語であるのに対し日本語は膠着語であるので、中心的な語彙の前に多くの連体修飾語を付け加えることができるという点が挙げられる。よって、「マカオが中国に返還されて15年となる20日、習主席は～（中国語：20日，即澳门回归中国的15周年纪念日，习主席～）」のように訳文が逆順になるのである。

3つ目として、両言語は習慣・認識（ロジック）が異なるという点が挙げられる。日本語はメインメッセージが最後に来る傾向が強いのに対し、中国語はメインメッセージが最初に来る傾向が強い。従って、「死生観（中国語：生死观）」、「三泊四日（中国語：四天三夜）」、「今日の東京株式市場の終値は460円39銭高の1万4,466円16銭です。（中国語：今天的东京股市收盘价为14466.16日元，比上一交易日上涨460.39日元。）」のような語順の逆転現象が存在している。

本稿は以上のように、語彙、フレーズ、文それぞれ異なるレベルに存在する日中両言語における語順の逆転現象が、言語の構造、性質、習慣・認識（ロジック）と深く関係しているということを論じる。

キーワード： 語順，逆転，日中両言語，通訳・翻訳，メインメッセージ

1. はじめに

日中両言語を訳す際に、語順を逆転させることが多い。筆者は翻訳の過程で、このような語順の逆転現象が単語レベル、句レベル、文レベル、談話（テキスト）レベルのあらゆるレベルに存在していることにしばしば気づく。逆転現象にはどのような特徴があるのか、またその背景にある原因は何かということをも明らかにすることで、より自然な訳し方ができるのではないかと考え、こうした日中翻訳での様々なレベルにおける逆転現象を幅広く記述し分類することにした。

2. 単語レベルの逆転現象

中国語と日本語の両言語には、字順が逆転している単語が数多く存在している。訳す際に単語そのものとして覚えておけば良いのだが、逆転している母国語の単語に影響され、誤用が生まれやすい。

字順の逆転現象に関しては、張力（2011）がある。ここではその分類方法を踏まえ、以下の3つに分ける。

a. 並列構造

死生観（生死观）、夜昼（昼夜）、終始（始终）、売買（买卖）、運命（命运）、北東（东北）、畏敬（敬畏）、白黒（黑白）、制限（限制）、段階（阶段）、限界（界限）、売買（买卖）、貸借（借贷）、貸し借り（借贷）、罰則（责罚）、従順（顺从）、需給（供需）、飲食店（餐饮店）、爽涼（凉爽）、余剰（剰余）、変転（转变）、食糧（粮食）、率直（直爽）、給付（付給）、期日（日期）、決裁（裁決）、運搬（搬运）、紛糾（纠纷）、移転（转移）、受領（領受）、充填（填充）、要綱（纲要）、買収（收买）、暴風（风暴）、濾過（過濾）、音声（声音）、選評（评选）、乱雑（杂乱）、強堅（坚强）、正々堂々（堂堂正正）、展延性（延展性）、緑黄色野菜（黄绿蔬菜）、鉱工業（工矿业）、商工会議所（工商总会）（他多数）

これらの並列構造の単語は、日中両言語にそれぞれ変遷の経緯、また、両国の認識の違いに起因して逆転現象が起こると考えられる（張力 2011）。

例えば、論語の言葉である「生死有命（「論語」顔淵から⁽¹⁾）の訳文は「死生命あり」というふうに訳されていた経緯があり、恐らく昔から日本語として「死生」という順番が最適だったのではないかと思う。「死を通した生の見方を強調する日本人独特の宗教観を示している」と主張する人もいる⁽²⁾。死生観（生死观）や運命（命运）といった例から見れば、日本語のメインメッセージが後ろに来る傾向が強く、中国語のメインメッセージが前に来る傾向が強いと筆者が考えている。

b. 修飾構造

b-1 短縮（縮短）、軽減（減輕）、半減（減半）、倍加（加倍）、敗戦（战敗）、満期（期満）
b-2 鬼女（女鬼）、気管支（支气管）

b-1のように、日本語（短縮）は修飾語（短く）＋動詞（縮む）の修飾構造となっているが、中国語（縮短）は動詞（縮む）＋結果（短く）の「動補」構造となっている。よっ

て、両言語において逆転現象が生じている（張力 2011）。

b-2のように、日本語（鬼女）は「鬼と化けた女」という複雑な連体修飾構造に対し、中国語（女鬼）は「女の鬼」という簡単な修飾構造である。

また、「気管支」も中国語と異なる発想で、日本語は「気管分岐部で左右に分かれてからの先」という意味に対し、中国語は「メインの気管ではない『支气管』」という意味である。つまり、日本語が複雑な修飾構造であるのに対し、中国語は単純な修飾構造であると言える。

c. 目的語・述語(OV)構造

c-1	<u>鉄欠乏</u> （ <u>缺鉄</u> ） <u>性貧血</u> 、 <u>面会</u> （ <u>会面</u> ）、 <u>年賀</u> （ <u>贺年</u> ）、 <u>穎脱</u> （ <u>脱穎</u> ）、 <u>航続</u> （ <u>续航</u> ）、 <u>淫売</u> （ <u>卖淫</u> ）、 <u>詩吟</u> （ <u>吟詩</u> ）、 <u>水滴石穿</u> （ <u>滴水穿石</u> ）
c-2	<u>救急</u> （ <u>急救</u> ）

c-1のように、日本語は「目的語（以下Oと表記する）＋述語（以下Vと表記する）」構造であるのに対して、中国語は「述語＋目的語」という構造となっている。中国語はVOで、日本語はOVという形であり、逆になっているわけである。

例えば、日本語の「鉄欠乏性貧血」は、O（鉄）＋V（欠く）のOV構造となっているが、中国語（缺鉄）はV（缺）＋O（鉄）のVO構造となっている。

ただし、c-2のように、「救急（急救）」は上記の説明には当てはまるものではなく、例外として、今後の研究課題とする。

以上に述べたように、語彙レベルの逆転現象には言葉の背景となる文化・認識、構造的な原因、更に修飾関係が存在していると考えられる。以下の表1にまとめる。

表1. 語彙レベルの逆転現象の整理

構造別	逆転現象の起こる背景	代表例
並列構造	変遷の経緯、或いは両国の認識の違い。 日本語はメインメッセージが最後に、 中国語はメインメッセージが最初に来る傾向が強い	<u>死生観</u> （ <u>生死观</u> ）
修飾構造	日本語は「修飾語＋動詞」の修飾構造、 中国語は「動詞＋結果」の「動補」構造	<u>短縮</u> （ <u>缩短</u> ）
	日本語は複雑な修飾関係の構造、 中国語は単純な修飾関係の構造	<u>気管支</u> （ <u>支气管</u> ）
OV構造	日本語はOV構造、中国語はVO構造	<u>鉄欠乏</u> （ <u>缺鉄</u> ） <u>性貧血</u>

3. フレーズレベルの逆転

フレーズレベルの逆転現象も語彙レベルのような a. 並列構造 b. 修飾構造 c. 目的語述語構造の3種類に分けられる。

a. 並列構造

3泊4日（ <u>四天三夜</u> ）、飲んだり食べたり（ <u>吃吃喝喝</u> ）、売ったり買ったり（ <u>买进卖出</u> ）、需要と供給（ <u>供给和需求</u> ）、分析と研究（ <u>研究和分析</u> ）、同工異曲（ <u>异曲同工</u> ）

日本語の「3泊4日（中国語：四天三夜）」は前述した語彙レベルの「夜昼（中国語：昼夜）」と順番が同じく、夜が先、昼は夜の後ろにつく。中国語では、昼が先で夜は昼の後ろにつくという順番である。こういう並列の順番も両国の認識の違いによるものだと考える。メインメッセージの「4日」は日本語では後ろに来るのに対し、中国語では先に来る傾向が強いと筆者が考える。

日本語の「飲んだり食べたり」は時々「食べたり飲んだり」ということもあるが、中国語は基本的に「吃吃喝喝」という順番である。この言葉には中国人の「食べる（吃）」ことは「飲む（喝）」ことより「メインメッセージ」であるという認識が含まれていると考える。

こういう言葉に含まれている認識やロジックは、語彙レベルとフレーズレベルにおいて、一致している例がいくつか見つかったので、以下の表2にまとめる。

表2. 語彙レベルとフレーズレベルにおける逆転現象の一致用例

	語彙レベル	フレーズレベル	一致した認識
1	夜昼（昼夜）	2泊3日（三天二夜）	日本語：「夜」が先 中国語：「昼」が先
2	需給（供需）	需要と供給（供给和需求）	日本語：「需要」が先 中国語：「供給」が先
3	飲食店（餐饮店）	飲んだり食べたり（吃吃喝喝）	日本語：「飲む」が先 中国語：「食べる」が先
4	売買（买卖）	売ったり買ったり（买进卖出）	日本語：「売る」が先 中国語：「買う」が先

以上の例から、日本語は語彙レベルもフレーズレベルも語順が同じく、一貫性があることが分かった。その背景には両言語において、物事に対する認識やロジックに一貫性があるということがある。

b. 修飾構造

- b.1 習近平国家主席（国家主席习近平）、トランプ大統領（总统特朗普）、洪磊副報道局長（新闻司副司长洪磊）、小川容疑者（嫌疑犯小川）、伊藤被告人（被告人伊藤）
 b.2 ファンの一部（部分球迷）、武芸十八般（十八般武艺）、全9巻セット（全套9巻）
 b.3 渡航の自粛（自行控制出国）、水際対策の強化（加强边境检查）、鯖の塩焼き（盐煎青花鱼）、茄の味噌炒め（味噌酱炒茄子）

「田中課長（中国語も：田中科長）」のように、中国語も日本語も肩書が基本的に名前の後ろにつくが、中国語の場合は、例 b.1 のように「国家主席」や「新闻司副司长」のような特定の場、肩書をメインメッセージとして強調する意味で、名前の前に肩書を置いていると考えられる。

b.2 のように、日本語では「一部」という言葉が「ファンの一部」でも「一部のファン」でも両方使えるが、中国語では「部分球迷」としか言うことができない。

また、b.3 のように、日本語（「渡航の自粛」）は修飾構造であるが、中国語（自行控制出国）は VO 構造である。これは、日本語と同じ修飾構造（出国的自行控制）にも訳せる

が、実際使う頻度が低く、定着した用語ではない。また、「鯖の塩焼き（盐煎青花鱼）、茄の味噌炒め（味噌酱炒茄子）」はそのままの修飾構造（×茄子的味噌酱炒）には訳せず、VO 構造（味噌酱炒茄子）にしか訳せないのである。従って、日本語の修飾構造が中国語の VO 関係も訳せ、機能性の高い構造であると言える。

c. 目的語・述語 (OV) 構造

<p>c-1. <u>販路開拓</u>（<u>拓展销路</u>）、<u>規制緩和</u>（<u>放宽管制</u>）、<u>回転数制御</u>（<u>控制转数</u>）、<u>負担軽減</u>（<u>减轻负担</u>）、<u>責任放棄</u>（<u>放弃责任</u>）、<u>角質除去</u>（<u>去角质</u>）、<u>静電気除去</u>（<u>除静电</u>）、<u>社会人むけ</u>（<u>面向社会人员</u>）、<u>クラス分け</u>（<u>分班</u>）、<u>代表内定</u>（<u>选定人选</u>）、<u>南瓜煮</u>（<u>煮南瓜</u>）、<u>自身フライ</u>（<u>炸鱼</u>）、<u>学位授与</u>（<u>授予学位</u>）、<u>学生確保</u>（<u>确保生源</u>）、<u>渡航中止</u>（<u>中止出国</u>）、<u>人間観察</u>（<u>观察人</u>）、<u>テレビ離れ</u>（<u>远离电视</u>）、<u>ボケ担当</u>（<u>负责逗哏</u>）、<u>ネズミ駆除</u>（<u>灭老鼠</u>）、<u>ランニングコスト不用</u>（<u>无需运营成本</u>） （他多数）</p> <p>c-2. <u>管理通貨</u>（<u>货币管理</u>）制度</p>

前述した語彙レベルの逆転現象と同じく、フレーズレベルも、c-1.のように、OV 構造と VO 構造の違いに起因する例が数多く見つかった。

なお、例外として「管理通貨（货币管理）制度」という上記の説明に当てはまらない用例が存在し、今後の課題として研究を進めたいと思う。

以上に述べたように、フレーズレベルの逆転現象にも認識、修飾性、OV 構造的などの原因が存在する。その原因を構造別で以下の表 3 にまとめる。

表 3. フレーズレベルの逆転現象の整理

構造別	逆転現象の起こる背景	代表例
並列構造	習慣・認識の違い （日本語はメインメッセージが後ろに、 中国語はメインメッセージが先に来る傾向が強い）	3 泊 4 日（ <u>四天三夜</u> ）
修飾構造	習慣・認識の違い （日本語はメインメッセージが後ろに、 中国語はメインメッセージが先に来る傾向が強い）	習近平 <u>国家主席</u> （ <u>国家主席</u> 习近平）
	日本語の修飾構造は中国語の VO 構造にも訳せる場合 があり、機能性が高い	渡航の <u>自粛</u> （ <u>自行控制</u> 出国）
OV 構造	語順構造の違い （日本語は SOV 構造、中国語は SVO 構造）	<u>販路開拓</u> （ <u>拓展销路</u> ）

4. 文レベルの逆転

文レベルの逆転現象も多く存在している。以下、文の構造により分類整理する。

a. 述語の構文構造による逆転

例 1：日本語：静岡大学の研究チームが調査結果をまとめた。

中国語：静岡大学的一个研究小组总结了调查结果。

例1のような逆転現象の例は数えきれないほど存在している。なぜなら、日本語はOV構造であるのに対し、中国語はVO構造であり、両言語の語順が逆になっているのである。日本語を中国語に訳す時に、後ろにある述語を一早く前に抽出する必要がある。特に例2のような長い文を訳す場合、逆転現象に対する理解と認識が必須である。

例2：日本語：沖縄県の石垣島で、約2000年前から現在までに巨大津波が計4回起きたことを示す地層の痕跡を発見したという調査結果を、静岡大学の研究チームがまとめた。

中国語：静岡大学的一个研究小组总结了他们的调查结果：他们发现了能证明冲绳石垣岛大约2000年前至今共发生过四次巨型海啸的地层遗迹。

また、目的語の有無にかかわらず、日本語は述語が文末に位置しているという構造的な特徴により、日中両言語において、逆転になっている文型が数多く存在している。例3と同じく、訳す時に逆になっている文型の一部を以下の表4にリストアップした。

例3：中国語：一般情况是不说的。
日本語：言わないのが普通です。

表4. 述語の位置の違いによる逆転文型例

	日本語 (中国語)	例文と訳文
1	…の <u>が事実だ。</u> (<u>事实情况是</u> …。)	農民の生活が苦しくなったのもまた <u>事実である。</u> (<u>事实上</u> 农民的生活状况是进一步下降了。)
2	…の <u>が現状だ。</u> (<u>现状是</u> …。)	日本の最低賃金は先進国の中で非常に低く、そして、貧困層に対する社会保障は不十分であるというのが <u>現状です。</u> (<u>现状是</u> 日本的最低工资在发达国家中是属于非常低的,而且对贫困群体的社会保障也不完善。)
3	… <u>構成になっている。</u> (<u>流程是</u> : …。)	今回の発表会は、1つの発表が終わるとすぐに審査員からの講評が入る <u>構成になっていました。</u> (本次比赛 <u>的流程是</u> 每位选手上场比赛结束后立即进入评委的讲评环节。)
4	… <u>が主流です。</u> (<u>主要是</u> …。)	日本の高度成長の時期、結婚相手を職場で見つけ、あるいはお見合いを通じて見つけるのが <u>主流でした。</u> (在日本经济高度增长期,人们 <u>主要是在</u> 工作单位或是通过相亲找结婚对象。)
5	… <u>という設定だ</u> (<u>设定是</u> …。) (他多数)	蜷川実花監督の最新作「Diner ダイナー」で演じたカナコモ、拉致された揚げ句、無理やり殺し屋専用食堂のウェイトレスをさせられるという <u>設定だ。</u> (在蜷川实花执导的新作《杀手餐厅》里饰演的加奈子,其人物设定也很复杂,是 <u>被绑架来后被</u> 迫在杀手餐厅里做女招待的。)

b. 修飾構造の逆転

例4：中国語：我们要研究和充分运用高科技手段，如卫星通信广播、计算机信息技术和数据处理技术以及电子字典等。

日本語：通信衛星放送、コンピューターを基礎とした情報技術とデータ処理、電子辞書など、高度な技術手段を研究し十分に活用しなくてはならない。

逐語訳すると「高度の技術手段を研究し十分に活用しなくてはならない。例えば、通信衛星放送、コンピューターを基礎とした情報技術とデータ処理、電子辞書など。」になるが、中国語は例を挙げる部分は後ろにあるのに対して、日本語は例を挙げる部分は前にある傾向が強い⁽³⁾。従って、訳す時に例の部分の位置を調節する必要がある。

更に言語の性質から考えると、これが日本語の膠着語という性質に起因していると思う。中国語は孤立語に属し、性質上長い修飾節が付けられない。一方、日本語は膠着語で長い連体修飾語が付けられる。このような性質に従い、連体修飾語として訳せる部分は位置を調整し体言の前に訳すと自然になる。

また、「の」からなる修飾構造の逆転現象の用例も存在している。

例5：日本語：労働者たちは大幅な賃金アップのストライキを行いました。

中国語訳文1：工人们进行了为大幅度提高工资的罢工。

中国語訳文2：工人们进行了罢工，为大幅度提高工资。

このような2通りの訳し方ができる文は、基本的に連体修飾語が短い場合に限る。もし連体修飾語が長い場合や決まった言い回しのある場合、中国語の訳文は独立節として訳し、日本語の訳文は連体修飾語として訳す傾向が強い。例えば、下記の例6は連体修飾語が長いので独立節として訳すしかない。これは、中国語の訳文は連体修飾語として訳すのが不自然だからである。この場合は語順が逆転になる。

例6：日本語：マカオが中国に返還されて15年となる20日、習近平国家主席は、記念式典で演説し、「一国二制度」は、「国の基本政策」で、「どんな困難や挑戦に遭っても、絶対に揺るがない」と強調。

中国語：20日是澳门回归中国的15周年纪念日，习近平主席在纪念仪式上发表演说，强调“一国两制”是中国的根本国策，无论遇到什么困难和挑战，绝不会动摇。

また、経済ニュースでよく耳にする言い回しとして次のような文があるが、対応する中国語の訳文の語順は、定型的に日本語とは逆の構造になる。

例7：日本語：29日東京株式市場終値は460円39銭高の1万4,466円16銭です。

中国語：29日东京股市收盘价为14466.16日元，比上一交易日上涨460.39日元。

以上の例はいずれも日本語の膠着語の性質によるもので、連体修飾語が多用されたり、中国語には見られない長い連体修飾語が使用されたりすることによって、訳す際に語順の

逆転調整が必要となるのである。

c. 従属節と並列節の逆転

例 8 : 中国語 : 你大声讲, 好让大家都能听到。

日本語 : みんなに聞こえるように、大きな声で話してください。

例 9 : 中国語 : 保重身体, 别感冒了。

日本語 : 風邪を引かないようにお気をつけてください。

例 8、9 のように、中国語ではその指令を明確化させるため、指令文を文の前に置く。目的や説明などは補足として後ろに付け加えるのである。それに対し、日本語は相手に対する指令は最後に来る傾向が強い。

例 8、9 は従属節の例であるが、以下例 10 は並列節の逆転の例である。

例 10 : 中国語 : 美国的教育是教学生获取信息的能力, 而不是要学生记忆信息。

日本語 : 米国の教育は、学生に情報を覚えさせるのではなく、情報を得る能力を身に付けさせることである。

中国語の言い回しは「是…、不是…」のに対し、日本語の言い回しは「…のではなく、…である」。これは言語の習慣であるが、その背景には、中国語はメインメッセージが文頭に位置し、日本語はメインメッセージが文末に位置しているというロジックが存在していると考えられる。

また、上記の例 7 を、語彙レベルとフレーズレベルで述べた「メインメッセージ」の考え方で考えると、日本語はメインメッセージの「終値 1 万 4,466 円 16 銭」が最後に来るのに対し、中国語はメインメッセージの「收盘价为 14466.16 日元」が最初に来る。こういう中国語のメインメッセージが最初に来る傾向が強く、日本語のメインメッセージが最後に来る傾向が強いというロジックは、語彙レベル、フレーズレベル、文レベルで共通していると言える。

これらの例のように、日中両言語における文レベルの逆転現象は広く存在している。以上整理した文レベルの逆転現象について、その背後にある原因を以下の表 5 にまとめる。

表5. 文レベルの逆転現象の整理

構造別	逆転現象の起こる背景	代表例
従属節 と 並列節	習慣・認識の違い。 (日本語はメインメッセージが文末に、 中国語はメインメッセージが文頭に来 る傾向が強い)	風邪を引かないように <u>お気をつけて ください</u> 。(保重身体, 別感冒了。) …ではなく…である(是…不是…)
長い連 体修飾 語	習慣・認識の違い (日本語はメインメッセージが文末に、 中国語はメインメッセージが文頭に来 る傾向が強い)	29日東京株式市場終値は460円39銭 高の <u>1万4,466円16銭</u> です。 (29日东京股市收盘价为 <u>14466.16日 元</u> , 比上一交易日上涨460.39日元。)
	言語の性質 (中国語は孤立語、日本語は膠着語)	<u>マカオが中国に返還されて15年とな る20日</u> 、習近平国家主席は…。 (20日是澳门回归中国的15周年紀念 日, 习近平主席…。)
述語	語順構造の違い (日本語はSOV構造、中国語はSVO構 造)	静岡大学の研究チームが <u>調査結果を まとめた</u> 。(静岡大学的一个研究小 组总结了调查结果。)

5. まとめ

本稿は翻訳・通訳の視点で、日中両言語における語順の逆転現象について整理し、その原因を述べた。

そして、語彙レベル、フレーズレベル、文レベルのあらゆるレベルに逆転現象が存在していることを検証した。

更に、レベルが違っていても、逆転現象の裏にある原因は共通していることが分かった。各レベルの逆転現象の共通した原因は以下の表6のように整理できる。

表6. 各レベルの逆転現象の共通した原因

	語順構造の違い	言語の性質	習慣・認識の違い
日本語	OV	膠着語	メインメッセーが最後に
中国語	VO	孤立語	メインメッセーが最初に

注

(1) <http://www.kakuoanjin.com/life/>

(2) 人民網日本語版 中日フォーカス

<http://j.people.com.cn/n3/2017/0426/c94473-9208028-2.html>

(3) 何午. 日本語の統語構造認知—中国語の対照を兼ねる[M]. 大連理工大学出版社, 2013.

参考文献

金田一春彦. 李徳(訳). 日語的特点[M]. 外語教学与研究出版社, 1985.

張力. 浅析中日二字逆序詞[J]. 「科学時代」, 2011(20).

何午. 日本語の統語構造認知—中国語の対照を兼ねる[M]. 大連理工大学出版社, 2013.

吳大綱. 漢訳日翻訳語法学[M]. 華東理工大学出版社, 2014.